



2026年がはじまりました。今年の干支は「午」です。午年はエネルギーに満ちた年と言われ、特に新しい挑戦に適した年なのだそうです。今年がみなさんにとって素晴らしい1年になることを願っています。




赤い鳥小鳥 北原白秋

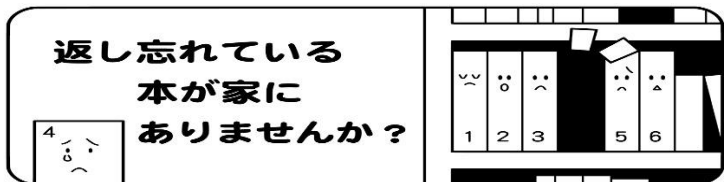
赤い鳥、小鳥、
なぜなぜ赤い。
赤い実をたべた。

白い鳥、小鳥、
なぜなぜ白い。
白い実をたべた。

青い鳥、小鳥、
なぜなぜ青い。
青い実をたべた。

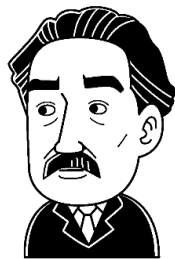
日本語を味わう名詩入門7
北原白秋
あすなろ書房 より





冬休み貸出の返却期限は1月16日(金)です。

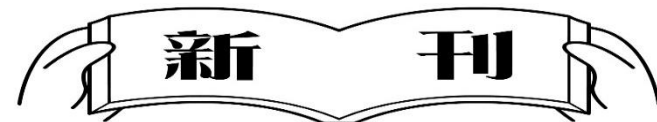
1月生まれです!



きたはら はくしゅう
北原白秋

1885-1942

福岡県の商家に生まれた。旧制中学の頃から雑誌に短歌や詩を投稿していた。やがて上京し早稲田大学に入学、与謝野鉄幹の新詩社に参加し、雑誌『明星』に作品を発表した。1909年の詩集『邪宗門』、1911年の小曲集『思ひ出』により詩壇の第一人者としてみとめられる。1918年から鈴木三重吉らの雑誌『赤い鳥』で童謡を担当し、新しい童謡を次々と発表、その後山田耕筰とともに『待ちぼうけ』『からたちの花』など2人のコンビによる国民的な愛唱歌を数多く残した。



正しく疑う 新時代のメディアリテラシー

池上彰:監修 361夕 Gakken

情報を得る手段として、テレビ・新聞・本・雑誌・インターネットなど様々な媒体があります。それぞれの情報はどうやって作られているのでしょうか?どの情報が正しいのでしょうか?そしてあなたは知り得た情報を疑ったことはありますか?もしかしたらあなたに届く情報は偏っているものかもしれません。

わたしのbe 書くたび、生まれる

佐藤いつ子:著 913サ KADOKAWA

高校デビューを夢見る文香。書道部に入部し、出会ったのは光源氏とみまごうばかりの美男子や、可愛いらしい女子…。自分や他人の見た目に翻弄され一喜一憂する文香でしたが、完璧と思っていた彼らにも悩みがあることに気づかされます。やがて書道にも真剣に取り組むようになり、もやもやした毎日から脱皮していく文香。朝日中高生新聞に連載された小説です。

ミルキーウェイ 竹雀農業高校牛部

堀米薫:作 913ホ 新日本出版社

農業高校に入学した夢生(むう)は、入学式の日校内を歩く牛を見てすっかり魅了されます。すぐさま牛部へ入部し、牛のお世話に明け暮れることに。はじめは牛に癒され充実した日々を過ごしてはいたが、乳牛コンテストに出場することになったり受験で思い悩んだり、なにかと「腹をくくる」場面がおとずれます。牛を通して夢生が成長する、すてきな物語です。